

「災害」に備えて

災害は、いつ、どこで、どのように起こるかわかりません。

この時期は特に台風や大雨により、急傾斜地の崩壊や河川の増水による堤防の決壊なども想定されます。普段から緊急時の備えを確認し、災害を最小限にする日頃の準備が大切で、「自分のことは自分で守る」という意識を持つことが重要です。

いざという時に、あわてず冷静に行動できるように、災害時の対処について家族でしっかりと確認しておきましょう。

■日頃からの心がけ

- 家の周りの危険な所を確認しましょう。
- 家の中や周囲の安全確認（落下・転倒防止・火災防止など）を行いましょう。
- 避難場所や避難経路などを決めておきましょう。

- 家族が離ればなれになった場合の連絡方法なども確認しておきましょう。
- 緊急時の持出品や備蓄品を準備しておきましょう。

■災害時の避難行動

災害による被害の発生が予想される時は、その状況に応じて、町から避難勧告、避難指示が出されます。

これらの情報は、自治会からや広報車などにより町民の皆さんにお伝えしますので、呼びかけに注意して、速やかに避難行動がとれるように心がけましょう。

- 避難準備
気象台などにより大雨・洪水警報が発令されたら、避難の準備をしましょう。
- 避難勧告
町から「避難をはじめてください」と避難勧告が出されたら、お互いに助け合って、指定された避難所に速やかに避難をはじめましょう。
- 避難指示
町から「直ちに避難をしてください」と避難指示が出されたら、指定された避難所に直ちに避難をしましょう。

○自主避難
過去の教訓や周囲の異変から危険を感じた場合は、避難指示を待たずに避難所などに避難しましょう。

- ※避難時の主な行動
- ・自分自身の安全確保
 - ・ガスやストーブなどの火の始末や確認
 - ・避難時の電気ブレーカー遮断
 - ・避難経路の確保
 - ・非常持出品の持ち出し
 - ・子どもやお年寄りの保護
- そのほか、テレビやラジオなどで正確な情報を収集しましょう。



緊急時持出品

貴重品（現金・通帳・印鑑・保険証・免許証など）、飲料水、食料（カンパン・ビスケット・チョコレートなど）、懐中電灯、ラジオ、予備電池、ローソク、ライター、マッチ、救急セット、衣類、雨ガッパ、軍手、タオル、救急セット、衛生用品、缶切り、ポリ袋、ビニールシートなど

地区名	一時避難場所	電話番号
北落合	北落合小学校体育館	52-2400
落合	落合小学校体育館	53-2423
幾寅	幾寅小学校体育館	52-2311
	南富良野中学校体育館	52-2410
東鹿越	スポーツ研修センター	52-2346
	地域交流センター	避難所開設時に設置
金山	金山小学校体育館	54-2521
下金山	下金山小学校体育館	55-2050

B・Bがやってきた！

7月28日、北海道日本ハムファイターズのマスケットキャプター「B・B」が、10年をかけて道内全市町村を訪問する「212物語」プロジェクトの一環で本町を訪問しました。

はじめに、少年野球チーム「幾寅タイガース」の練習を見学、子どもたちの練習にも力が入り、B・Bも思わずバットを取りノックをはじめ、子ども達に夢と思い出を残し、幾寅駅や落合のラフティングの様子を見学し、かなやま湖ではカヌーにものりましました。



撮影は町内各所で行われ、最後は、かなやま湖畔キャンプ場で開催された「湖水まつり」前夜祭に登場し、記念撮影やサインなどの交流会がステージで行われました。



撮影された映像は、9月29日（土）に札幌ドームで行われる埼玉西武戦の試合開始約1時間前に、大型ビジョンで放映されます。

また、この日に合わせ「日本ハムファイターズ南富良野応援団（奥田充団長）」による『観戦ツアー』が行われます。詳しくは、応援団事務局永井（職場）役場企画課 ☎52-2115 までお問い合わせください。

福島キッズ

南富良野のフィールドを満喫

福島第一原発事故の影響で屋外で遊ぶことが難しい福島県の子どもたち小中学生28名が、かなやま湖スポーツ研修センターを拠点に8月1日から8日までの8日間滞在し、夏休みを満喫しました。

この事業は、福島県や道内のNPO法人が実行委員会を組織し、「ふくしまキッズ夏季林間学校」を主催。道内8つのコースに分かれ、拠点を移しながら夏休み期間を過ごします。昨年から行われており、本町に来町するのは2回目になります。



町内の受け入れは、NPO法人どんごる野外学校が主体になり、大学生や町職員がボランティアスタッフに加わり、午前中は宿題や自主学習・自由遊びを行い、午後からはカヌーやラフティング、プール遊び、ミニトマ

トの収穫体験や旭山動物園見学など様々な遊びを体験し、楽しく過ごしました。

町では、支援活動の一環として滞在期間中、活動の移動手段の提供や炊事などの協力を行いました。参加している6年生児童は「県内で状況は違うと思いますが、僕たちは、建物は壊れたままや直っている物がありますが、見える範囲での除染はあまり進んでいないので、近くの山や広場では、やっぱり気になるので自由に遊べない状況です。こちらでは、何も気にしないで、木に登ったり草の上に寝転んだりできることがとてもうれしくて、みんなで外で遊べて楽しかったです。お世話くださった皆さんありがとうございました。」と感想を話してくれました。

町内の受け入れは、NPO法人どんごる野外学校が主体になり、大学生や町職員がボランティアスタッフに加わり、午前中は宿題や自主学習・自由遊びを行い、午後からはカヌーやラフティング、プール遊び、ミニトマ